

パートナーシップおかや

NO. 29

岡谷市男女共同参画推進市民の会

男女共同参画に思う

岡谷市区長会長 東堀区長 杉村 法夫



男女共同参画社会と言われて久しいが、私の経験から感じていることは学校教育の場や職場での男女雇用機会均等法などにより、特別な意識を持つことなく比較的自然的に受け容れられて来ているように思います。

家庭での夫婦間のこととなりますが日常の食事の用意や片づけ、掃除・洗濯などの家事について、生活の中では就業や友達付き合い、習い事など夫々に種々の予定が生じて来るのですが、そうした時お互いに少しの気遣いによって自然に上手く分担した生活が出来て来ています。

一方地域での役職やリーダーとして捉えてみるとまだまだ言葉が先行してしまっていて、実態が伴わない状態になっています。

学校や職場では就学年齢や就業年齢の幅がさほど広くないことにより、仲間や集団としてうまく溶け込める様な土壌が出来てきているように思います。

しかしながら地域の組織づくりとなると難しさもあります。その対象を成人として捉えてみると相当年代の幅が広く、「先人の努力と長い歴史の中で培われてきた地域風土を良い意味で受け継ぎ、住み良い地域（区）にして行く」といった取り組みにも、地域の将来像を描く中で旧来からの慣習や固定観念といったフレームが出来ていることも要因としてあるのかもしれませんが。

特に女性団体として保健委員会や更生保護女性会などの役職やリーダーを選出する場合には難航することがあるのですが、一旦引き受けてしまえばその活動は活発に行われ、さらに上手く仲間づくりが出来、地域とのふれあいにも繋がっていることを考えると、お互いの立場を理解したり尊重することや引き受け易かったり運営しやすい環境をつくるなど、きめ細かに柔軟な対応を目指すことが第一だと思います。

まずは身近な小さいことから実践していくことが大切ですね。そうして少しずつ仲間や理解者が増えて来ることを望んでいます。

【イクボス・温か（あったか）ボス宣言】とは何？

企業、団体、教育機関、NPO、行政等の事業者、管理職等が従業員や部下の仕事と子育て・介護の両支援を「イクボス・温かボス宣言」として宣言し、職場におけるワーク・ライフ・バランスや多様な働き方の推進等に取り組むもの。

【イクボス】とは NPO 法人ファザーリング・ジャパン代表理事 安藤哲也さんによると

職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランスを考えその人のキャリアと人生を応援しながら組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司（経営者・管理職）を指す。

男女共同参画週間 (6月23日～29日) パネル展示

～岡谷市の大型商業施設「レイクウオーク岡谷コート」で初の展示～

昨年まではイルフプラザ・カルチャーセンターにて展示をしておりましたが、今年は大勢の方々に見て頂こうと多くの来客で賑わう大型店に始めて会場を移し、明るい照明の中、軽快な音楽が流れいつもとは違った雰囲気の中で、見学者に入賞ポスター入りのポケットティッシュを配りながら、お客さんと会員が「男女共同参画」について意見交換ができました。

○展示内容

- ・市民の会の活動状況
- ・小・中学生のポスターコンクール入賞作品
- ・昨年市内小学生制作の啓発かるた等



○展示を見ながら聞いた感想

- ・かるたはうなずける事ばかりで楽しく読んだ (70代男性)
- ・パネル展示は読みやすく纏められていた
- ・かるたを貸し出してほしい
- ・一人親の子どもが傷つかないかな? (70代男性)
- ・学校でかるたを楽しんでいる
- ・ポスターは一言で伝わるコメント。色使いがすばらしい (多数の人の感想)
- ・自分が作ったかるたがあって嬉しかった
- ・男女差の意識はない (20代男性)
- ・細かい字の所にライトが当たるとなおよかった (60代女性)

○見学者から感想を書いてもらいました

(働き方について)

- ・自分の職業について考えるきっかけになった (20代女性)
- ・建設会社に女性が入社。優秀な女性で負けそう (50代男性)
- ・育休後会社復帰。子育て中は働きやすい制度を社会全体で考えてほしい (30代女性)
- ・女性が働きやすい会社が増えていることは嬉しい (60代男性)
- ・女性がこれからの日本を変えていくでしょう (70代男性)
- ・働きやすい環境づくりに市をあげて取り組んで (30代女性) (子育てについて)
- ・経済的に育休後職場復帰せざるを得ない。子育て中の人にもっと経済的支援がほしい (20代女性)
- ・離婚が増え一人親の子どもに支援が必要
- ・今まで育児に協力的でなかったがこれからは協力します (二児のパパ)



○展示を終えて

- ・市民の会の会員と直接言葉を交わした人 286 人。10 代女子と 70 代男性が多かった。(高齢男性が時間をかけゆっくり見ていたのが印象的) 感想を書いて頂いた人 53 人。
- ・一番観衆の目を引いたのは小・中学生の描いた「男女共同参画」啓発ポスターでした。
- ・従来の会場では見られなかったいろんな職業、年代の人々、多くの男性にも見てもらえた。
- ・乳児を抱いたパパや高齢者の夫婦連れが展示を見ている光景は良いものでした。(小口光子)

H28年度 第1回 パートナーシップ講座

結婚と子育てについての若者の意識を知り、
私たちに出来る事を見つけよう。

講師 信州豊南短期大学講師 小濱美知さん
会場 イルフプラザ多目的ホール

女性の活躍と言われるが「法律」と「若者の意識」と「私たちの認識」にギャップがある

「信州豊南短大生にハッピーなライフステージと働き方について聞いた」

- ① 幸せな生き方「山あり谷あり」の激変の多い生活でなく、
男女とも変化の少ない生活を望んでいるようです。
- ② 結婚、出産の時期についてどう考えているか?
女子学生に尋ねてみた。
早く結婚したい 約70%
[内27%：早く結婚・早く出産]
[内23%：早く結婚・遅く出産]
遅く結婚・遅く出産 約25%
遅く結婚・子どもは買わない 約20%
- ③ 「子どもを養育する方」「産まない生き方」「ずっとシングル」「ダブルインカム・ノーキッズ」と様々なあり、結婚・出産についての意識は多様化している。
- ④ 子育てについて男女学生に尋ねた。
女子：「いつか企業職、主として働いてほしい(またはパート)として就職したいが一番多い」
男子：「家になる女性には子育てで専念してほしい」
- ⑤ 女子学生が選ぶ働き方
最も多いのは、働くキャリア(ワーク・ライフ・バランスは取れているので長時間は出来るが食費によっては高値ににくい)スタイル。
「バリバリキャリア・スタイル」「専業主婦・スタイル」を選ぶ学生は少ない。
- ⑥ 「女性の活躍のイメージ」は一般的には「子育てしながら働き続ける専業主婦」であるが、女性が働く女性の活躍イメージは、「子育てしながら管理職・専門職で働くこと」
男性が働く女性の活躍イメージは、「6人に1人」

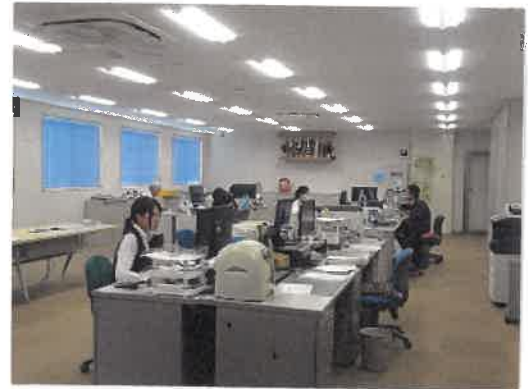
2017/06/26 11:58

《社員応援企業の紹介》 信越ハーネス（株）を訪ねてみました

昭和57年（1982年）に望月社長さんが39歳の時に、女性3人で設立した会社が現在社員56人（男性15人女性41人）と大きく発展し現在に至っています。

“代表取締役 望月久代さんの願い”

高度情報社会の中にあつて各大手企業からは多種多様な新製品が毎日のように研究開発、製造販売されています。当社はこのような製品に使用されている家庭製品、電子機器部品、医療機器、産業機器等々に内蔵配線されているハーネス製造（各種機材、ケーブル・電線の端末加工及び組み立て）を通して日々技術の向上、設備の充実を図り、地域に愛される会社をめざします。



昭和57年創業以来のモットー

「顧客第一主義」「俊敏な対応」「和」を以って明るく働き甲斐のある職場作り

◇良い社員 ◇良い会社 ◇良い製品

子育て支援、よりよい職場のための具体的手だて

- ◎お帰り採用 再雇用
子育て、育児のために退職した社員に
- ◎子育てお役立ち休暇
有給休暇の他に年3日の特別休暇、誕生休暇とは別に設定
- ◎パパ・ママの育児デー
第1・第4水曜日はノー残業デー
- ◎5S活動の実施
整理・整頓・清掃・清潔・躰
- ◎5S委員会の活動
4グループ構成、一人1つの仕事を担当
- ◎休暇の取り方、再就職は家族の実状により自己申告する
- ◎仕事のローテーションが出来るので代休可能である
- ◎管理職には男性が多いが、女性の管理職も誕生している
- ◎18・19歳で採用、勤続27年の女性もおり70代で内職している人もいる

社員の健康のために
毎月第1、第3金曜日の時間外に希望者が『自彊術』という体操を最近始めました。
同時に『禁煙運動』もしています。



家族の状況や健康にも配慮し、心地よい職場づくりに心をくだいておられる管理者により、明るい職場の雰囲気と働いている方々の穏やかな表情が印象的でした。
(小池喜代)

国が「男女共同参画社会基本法」(H. 11) 施行後、毎年内閣府男女共同参画局主催の恒例事業として開催され、岡谷市からも 16 名が参加しました。

- ・日時 平成 29 年 6 月 21 日(水)開演 13:00
- ・会場 東京国際フォーラム ホール C

〔第1部〕 基調講演

女性活躍担当大臣 加藤勝信氏

対 談 「女性活躍に向けて」

村上由美子さん (OECD 東京センター所長)

大森美香さん (脚本家)

事例紹介

「様々な分野で活躍する女性の取り組み
事例紹介」

- ・吉岡マコさん (NPO 法人マドレボニータ代表)
- ・佐藤可奈子さん (雪の日舎代表)
- ・尾松万里子さん (滋賀医科大学学長補佐)

〔第2部〕 ・パネルディスカッション

「地域ぐるみで女性活躍を実現する」

5名のパネリストの方々により、実績に基づいた具体的な意見と提言がありました。

<参加された人に感想・意見を聞きました>

- 男女共同参画社会づくりは、それぞれの企業、団体、個人、社会の取り組み方にどれだけ関心をもっているかではないかと思えます。まだまだ地域性があるのではと思いました。
- 安倍政権下で女性進出政策により、働く女性が増えてきたことが分かりました。生産年齢人口を増やすために高齢者の就業も必要であり、諸外国に比べ日本は女性が社会の中で台頭していないと言われます。男性・女性両方の目線で物事を捉えようとすれば、より良い方策が見つかるはずだと考えます。
- 女性活躍のための人材育成をしてもらうには、今日のフォーラム等に現在働いている女性達の参加が大切だと思います。そこから意識が高まり管理職候補となる人材が出てくるかも知れません。
- まだまだ男女共同参画社会になっていないと思えるのは、全国会議の参加者は高齢女性が多く、共に考えたい男性の参加の少なさにも垣間見える気がします。今更男性の意識改革を期待することは難しいでしょう。しかしダイバーシティー (年齢、性別、国籍などさまざまな違いを受け入れ、その多様性を積極的に活用しようとする考え方) への考え方は、若い世代に根付きつつあることを実感します。



平成29年7月7日 “あいとぴあ” 男女共同参画フォーラム 場所 県男女共同参画センター

○非正規職 (派遣・契約・パート) で働く女性の現状 ～調査結果～

発表者 横浜市男女共同参画推進協会 事業企画課長 白藤香織さん (横浜市男女共同参画推進協会調査)

- ・働く女性の非正規雇用の割合⇒56.3% (労働力調査 2015) 2003 年以降 50% を超え続ける。
- ・男性の非正規は問題になるがなぜ女性の非正規雇用は問題にならないのか⇒パートだから。主たる稼ぎ手(夫)に扶養されているから。女性の仕事は補助的労働にすぎないと思われる。
- ・男性稼ぎ主モデルのリスク⇒すでに破綻している。
- ・母子家庭の貧困、子どもの貧困、単身高齢女性の貧困⇒非正規。女性は働いても一人で食べていけない。
- ・非正規職シングル女性の問題点⇒2 人に 1 人が貧困 (35～44 歳)。全く支援がない。女性が経済的自立ができないのは個人の問題ではなく社会構造の問題。

○講演 子どもの貧困から見える『女性の貧困問題』講師 さいきまこ さん 漫画家

生活保護を本格的に取り上げた日本初の漫画家。新聞・テレビ等に取り上げられ話題になる。

- ・貧困を漫画で描くわけ⇒39 歳で離婚し生活に困窮しぎりぎりの生活を送っていた。
- ・貧困家庭に生まれれば一生貧困の連鎖⇒世間は子に親の扶養を義務づける。家庭の貧困→子どもの貧困。
- ・なぜ女性は「貧困」になってしまうのか⇒母子家庭に見られる非正規職約 6 割。男女の賃金格差。主たる働き手は男性という日本家族モデル。
- ・最後のセーフティネット⇒…生活保護制度の熟知。働いていても生活保護制度は利用できる。
- ・問題解決のために⇒現状と原因を知る。どんな政策が必要か。利用できる制度を知る。 (伊藤綾子)